地域に合った移動の仕組みづくりについて

（本日の内容）

1. 当財団の概要

2. 日本の地方における移動課題に関する活動事例と学び

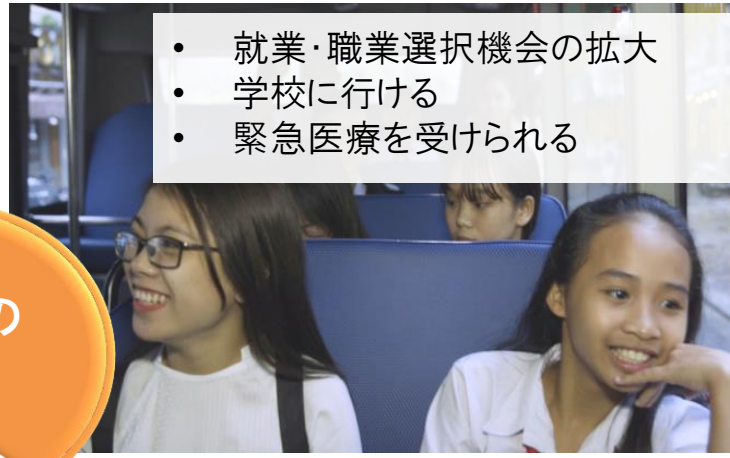
一般財団法人トヨタ・モビリティ基金　山中千花

1. 当財団の概要

名　称	一般財団法人　トヨタ・モビリティ基金 Toyota　Mobility　Foundation (TMF)
所在地	東京都文京区後楽1丁目4番18号 （トヨタ自動車 東京本社内）
設立者	トヨタ自動車株式会社
設立年月	2014年8月
設立趣旨	より良いモビリティ社会の実現、モビリティ格差の解消に向けた各種活動を通じて社会に貢献する
理事長	豊田　章男

- 事故、渋滞、環境汚染
- 不効率な土地利用

クルマの
負の要素の
解消



- 就業･職業選択機会の拡大
- 学校に行ける
- 緊急医療を受けられる

機会の
実現

TMFミッション

より良い
モビリティ社会づくり

不便の
解消

- 公共交通の不足
- 使いにくい車椅子
- 水汲みに毎日2時間

夢、驚き、
喜びの実現

- 初めて見る景色
- 多くの人との出会い
- 生涯アクティブに活動

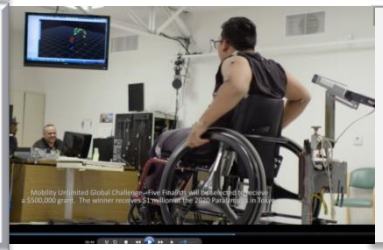
行動指針

人々の自由な移動の実現を通じて、豊かでサステナブルな将来社会における**レガシー**となる活動を**グローバル**に行う。

世の中を変える**イノベーティブ**な技術、仕組みの実現に向け**チャレンジ**する。

同じ志を持つ多様な**パートナー**と共に、**コラボレーション**しながら目標の実現を目指す。活動を通して学び、その結果を広く**社会に共有**する。

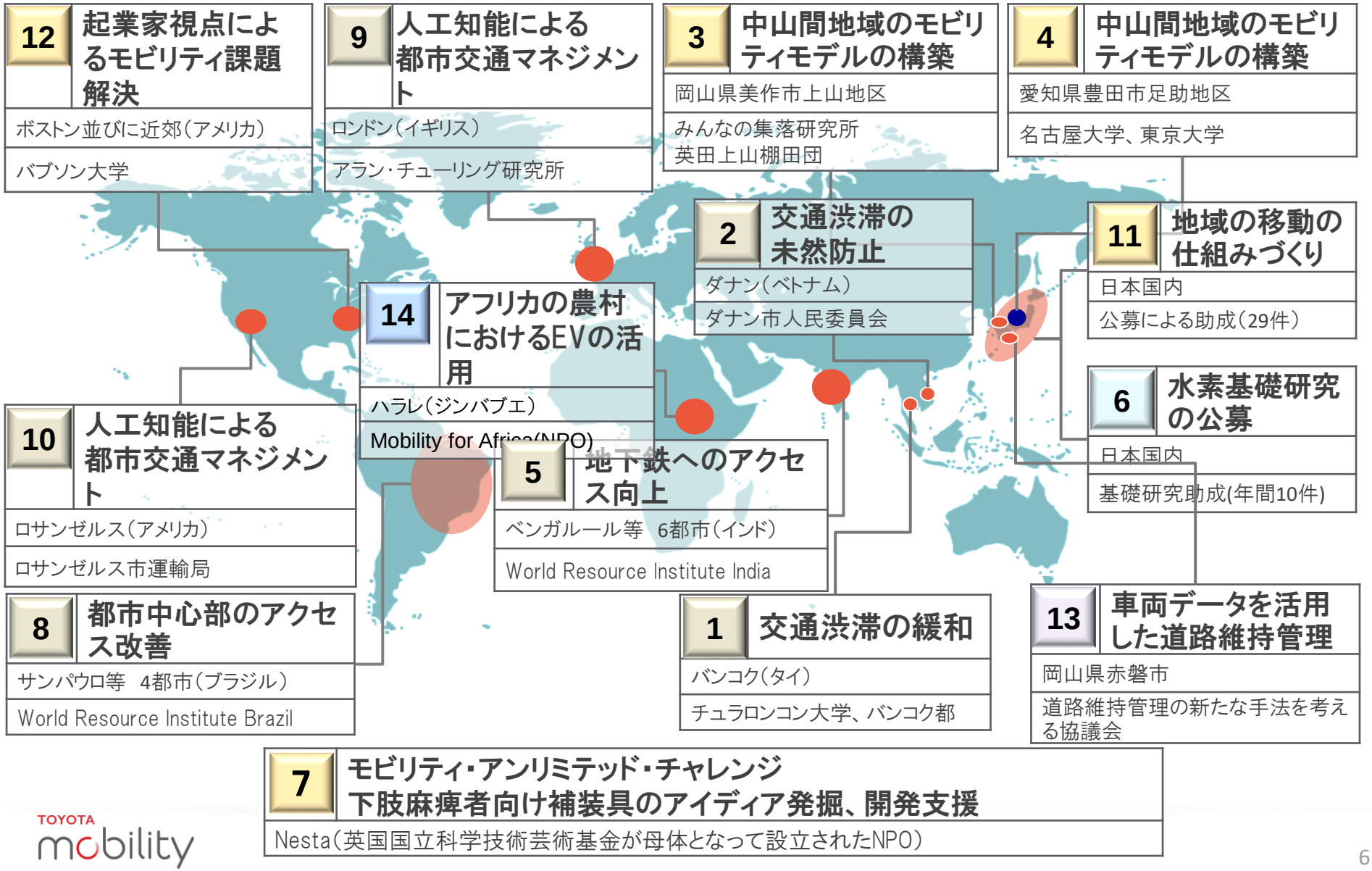
活動ポートフォリオ

テーマ		活動例
交通流最適化 ラストマイルアクセス向上		• 渋滞の緩和、交通手段の多様化 • 地下鉄駅へのアクセス向上
交通弱者の移動		• 障がい者用補装具のアイディア発掘、開発支援 • 高齢者などの暮らしを支える移動の仕組みづくり
自然災害対応		• 車両データを活用した道路維持管理
エネルギー （水素サプライチェーン）		• 水素基礎研究への助成 • 水素サプライチェーンの構築
モビリティを通じた 機会提供、 チャレンジの実現		• アフリカの農村におけるEVの活用

主な活動

http://toyotamobilityfoundation.org/ja/impact.html

● 実施中　● 完了



TOYOTA mobility FOUNDATION

2. 日本の地方における移動課題に関する活動事例と学び

活動の考え方

中山間地域	郊外都市	大都市
・公共交通の不足 ・地域経済の縮退	・人口構成の偏りによる急速な高齢化	・交通渋滞、通勤ラッシュ

移動のモデル構築に向けたプロジェクトを実施

TOYOTA mobility FOUNDATION

上山プロジェクト（岡山県美作市）
2016年1月～2020年6月

美作市上山地区について

●岡山県の北東部

●奈良時代にできた8300枚の棚田
（圃場整備ほとんどなし）

●薪炭林（マツ・ナラ）

●人口約150人、世帯数66世帯
そのうち、2010年からの移住者が18世帯40人

高齢化率 約40%

1. 活動目的

中山間地域の移動の不便を解消する仕組づくりと、
その維持を可能にするための
地域経済の活性化に向けた取り組み

2. 助成先

・NPO法人　みんなの集落研究所
・NPO法人　英田上山棚田団

3. 協力団体

・美作市
・岡山大学

4. 活動内容

＜初年度＞

現状把握と「困りごと」を共有するコミュニティづくり

全住民（160人）に
移動課題・ニーズを調査

コムス（超小型EV）を
住民に貸与し利便性調査

移住者と住民の
「助け合いの会」結成

中山間地における超小型モビリティの利用適正

検証

岡山大学氏原研究室、㈱バイタルリードの協力

3地域65歳以上のモニターに1ヶ月間コムスを貸出実施

- 地域特性の異なる3地域において超小型EV利用の適正が高い地域の検証
- 高齢者の自立した移動を支える乗り物として超小型EV適正検証

11km　8km　0km　集落からの距離

結果

高齢者にとって3km圏内に移動目的がある場合、コムスは利用されやすい。特に生活サービス機能が充実している周匝においては利用頻度が高かった。「※詳しくは岡山大学氏原研究室「中山間地域における超小型モビリティの利用適性に関する研究」を参照」

＜二年目＞
困り事に対して、対策実施

「困っている人」と
「助ける人」をマッチング

地域住民の互助による
乗り合いを実施

定期的な
「お出かけツアー」を
仕組化

コミュニティが本来持つ機能が復活、
移動の活発化

TOYOTA mobility FOUNDATION

2017年5月~2020年3月で集計・2020年4月以降も活動継続中

困りごとの助け合い（草刈り・子守など）

179回

支え合い送迎利用回数

253回

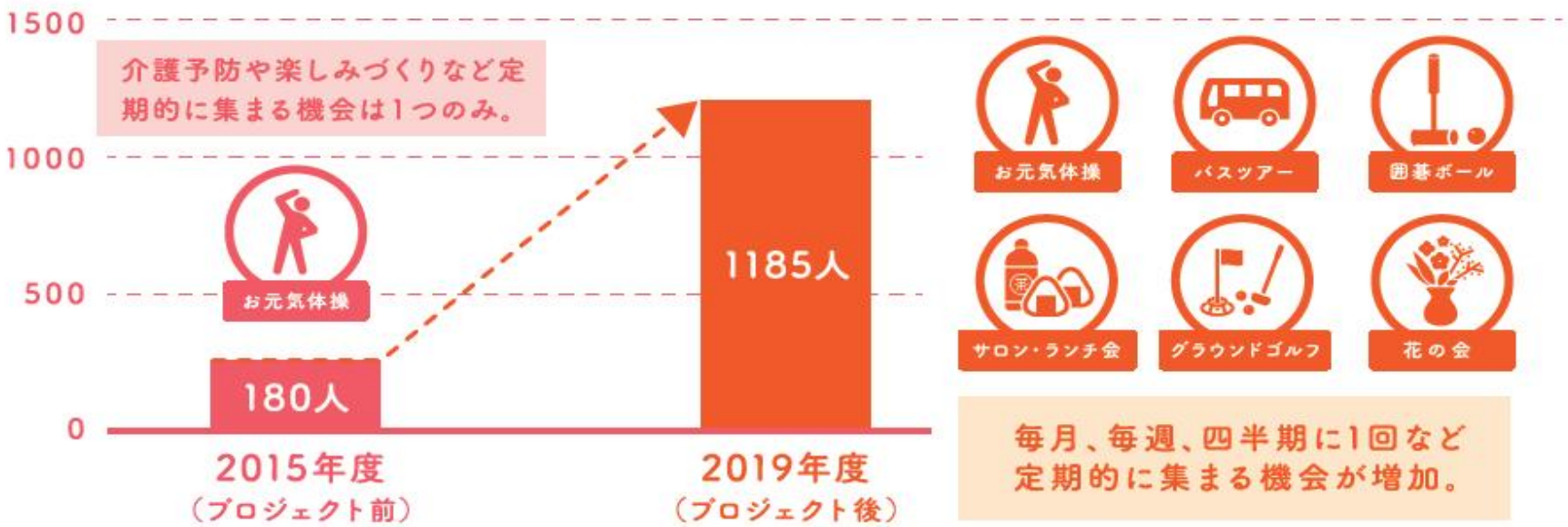
コミュニティが走るバスツアー

12回／延べ110名参加

集いの場

39回／延べ663名参加

上山地区の交流機会と参加者数



＜三年目＞

地域の助け合い、移動を担う若者、移住者の
定住促進を目指す

観光（ツアー、農業体験）

民泊ビジネス
（田舎暮らし体験）

地場産品のブランド化

地域経済の活性化（収入の拡大）に向けて
活動を継続

＋

＋

棚田の共同作業や当プロジェクトが地元住民と移住者を主体とする組織の成立を促した。

棚田再生活動を通して移住者同士がお互いに事業を支えあっている。

課題　空家・耕作放棄地・高齢化・担い手不足・獣害・商店の不足・社会インフラ網の劣化

資源　移住者・棚田・山林・ジビエ・野草・景観・体験フィールド・農作物・遊休施設・祭り

農業体験

NPO活動への参加
棚田暮らしの知恵の習得
地域住民との交流

従事者数 4人

カフェ

地域食材の活用
地域の窓口機能
カフェ業務

従事者数 2人

キャンプ場

焚き火・アウトドア
DIY・フェス
マウンテンバイク

従事者数 7人

体験・宿泊

野草・ジビエ
木工・農作業

従事者数 8人

商品販売・開発

お米・お米加工品
野草茶・にんにく
木工・わら細工・鹿革

従事者数 7人

生活支援（みんなの孫プロジェクト）

家の周り、田畑の草刈
小さな困りごとの解決
高齢者との対話を重視

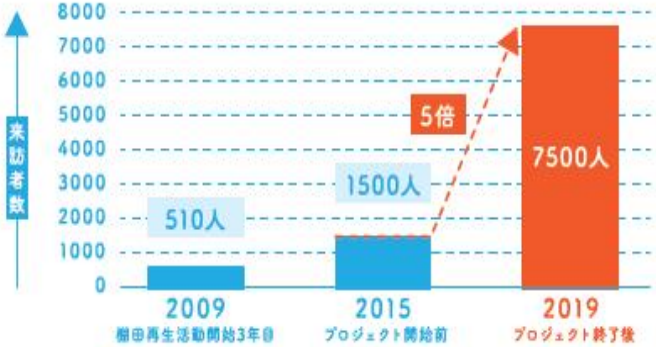
従事者数 7人

地域おこし協力隊

アパレル製作
狩猟活動

従事者数 3人

上山地区への来訪者数の推移



CHECK!

年度	来訪者数	総事業費（助成金含まず）
2009	510人	100万円
2015	1500人	310万円
2019	7500人	2500万円

・新規事業が7つ増加
・来訪者数5倍（2015年比）
・従事者数38人

キャンプ場の売り上げが地域経済や雇用に繋がってきた

キャンプ場オーナー・三宅さんのコメント

キャンプ場の売上が向上し、安定したので地域住民から野菜を仕入れるなど、さらに地域との関わりを増やしていきたい。

学びを受け、地域交通の一つの手段である「自家用有償旅客運送」導入に関する冊子発行

2018年7月発行、19頁
監修・福島大学・吉田樹先生

対象者

導入時に協力が必要なプレイヤーの皆様

- 市町村担当者
- 地域住民
- プロジェクトチーム
- 実施主体

内容

① 自家用有償旅客運送の役割と、法的整理
② 導入方法を10ステップで紹介し、各プレイヤーの役割を解説
③ 全国の好事例の掲載

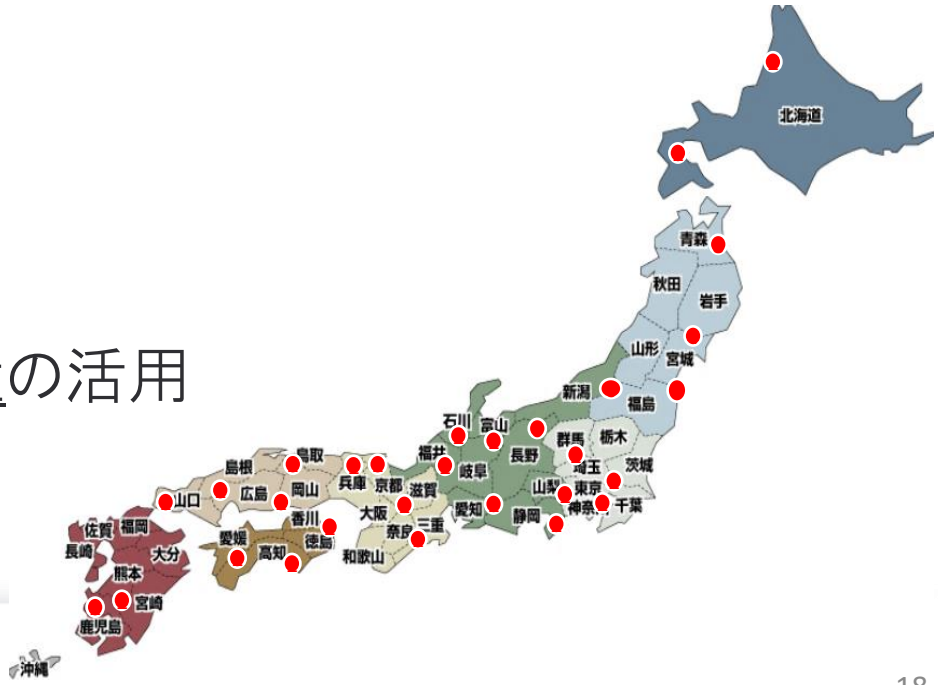
TOYOTA mobility FOUNDATION

日本全国から活動案を公募(2018年11月～)
「地域に合った移動の仕組みづくり」

多様なプレイヤーによる連携等、新たな発想による
それぞれの地域に合った持続可能な移動の仕組み作りを支援
（助成期間最長2年、金額最大3000万円/件）

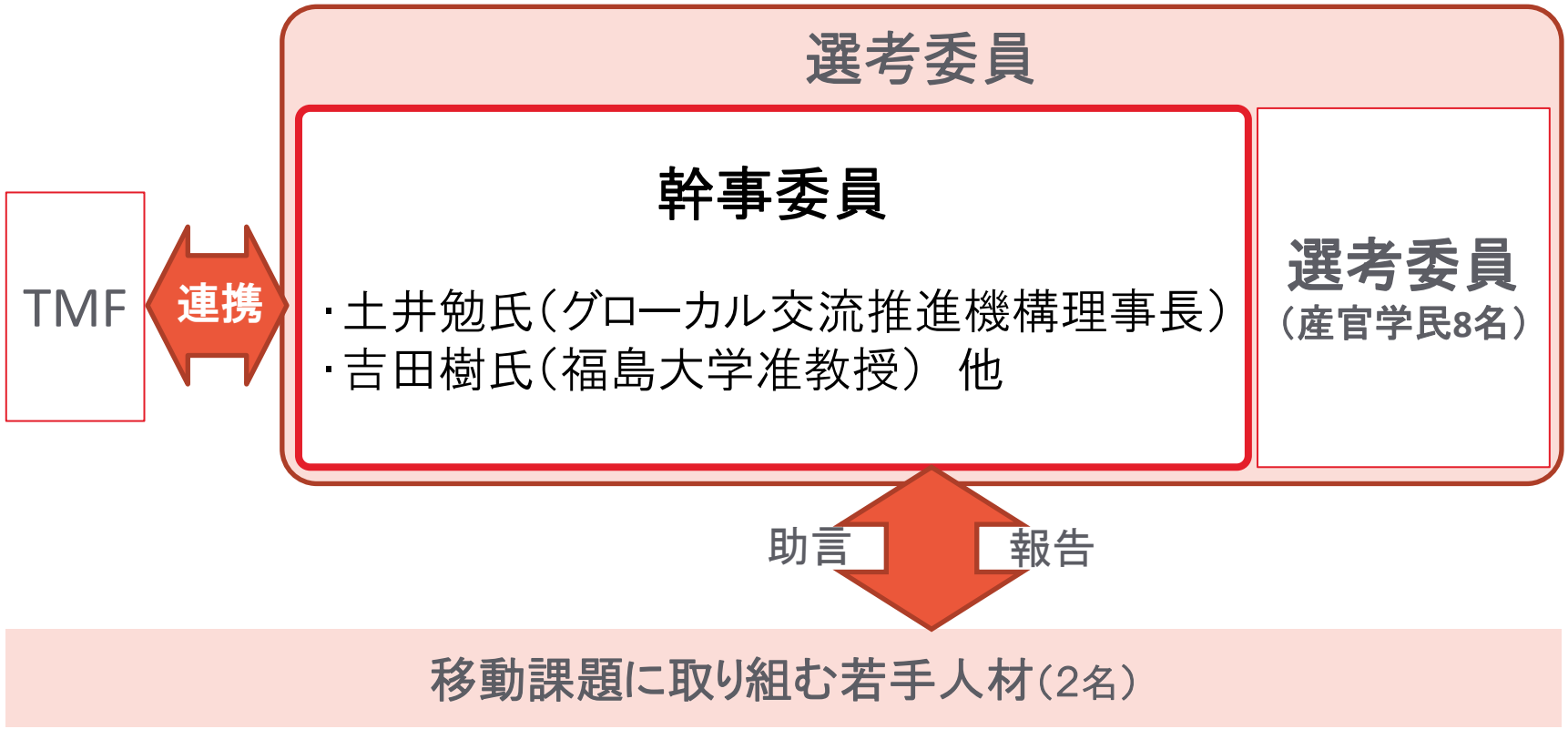
選考時に重視した点

- 住民と共に活動する枠組み
- 維持/継続に向けた工夫
- 既存の交通手段や地域資産の活用



TOYOTA mobility FOUNDATION

本事業の運営体制について



目的　①採択案件の進捗把握、効果検証
　　⇒　有効なソリューションの見極め　⇒ 好事例の発信
　　②全体像構築（都市計画、City design）への適用
　　③若手人材への機会提供

TOYOTA mobility FOUNDATION

29件を採択（応募総数105件）

活動を通じて
相互に学び、改善する場作り

地域づくりに効果的な
手法を発掘
→**好事例・ノウハウ発信、横展**

移動の課題に取り組む人々の
ネットワーク作り

兵庫県豊岡市プロジェクト
（2020年5月～）

（既存）

豊岡市が注力する取り組み（例）

高齢者支援・健康促進

観光芸術・演劇祭

共生・環境・農業

防災・救急医療

＋

（新規）

地域の規模に合ったDX推進により、データを横断的に活用し、運用を最適化

- ①あらゆる局面でのモビリティニーズ対応
- ②弱者（子供、高齢者等）の安全
- ③地域経済の活性化

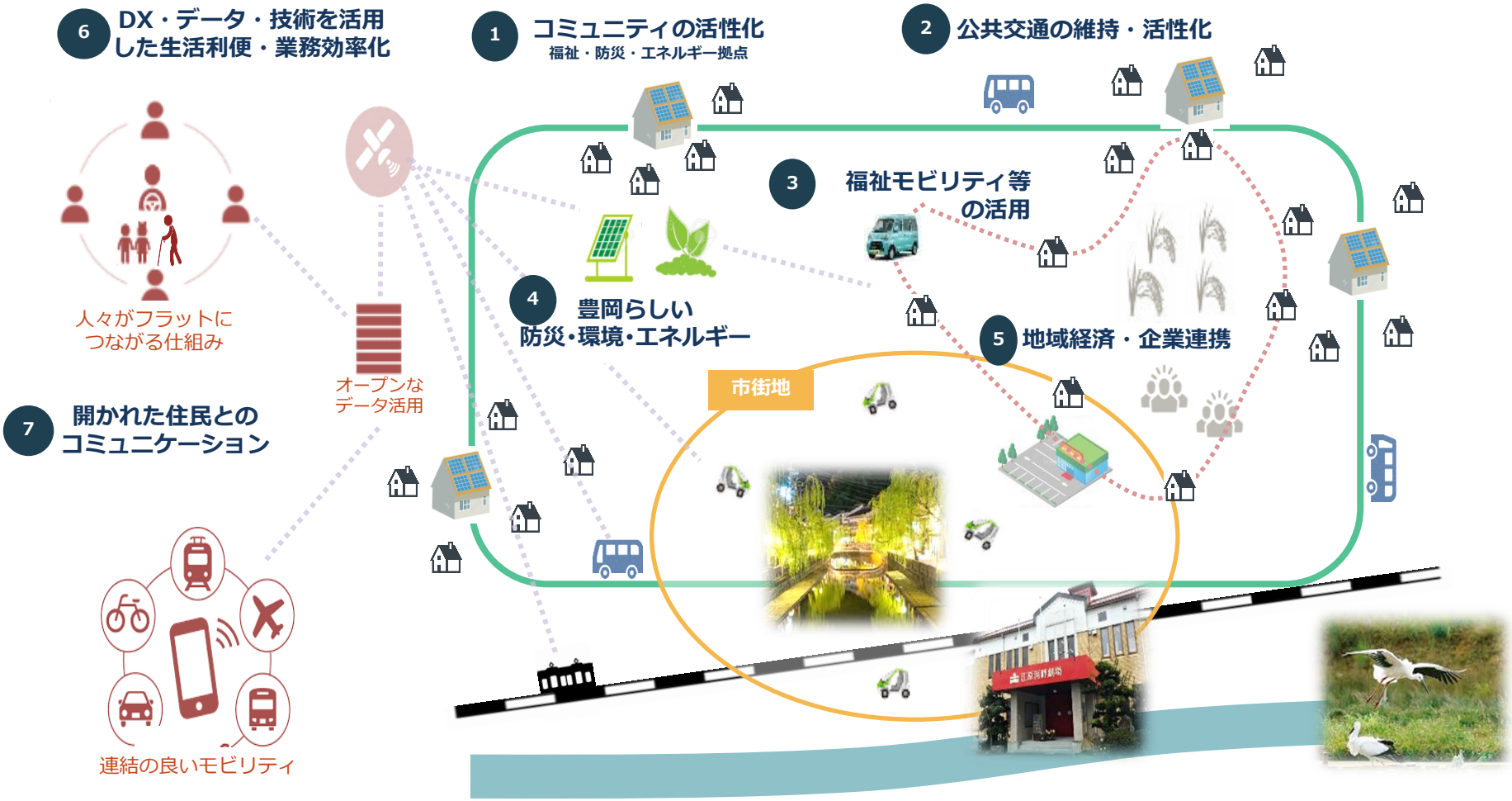
主な実施事項
（2020～2021年度末）

① あらゆる局面での モビリティニーズ対応	A) オンデマンド交通	• 買物、通学、通院など様々な需要に柔軟に対応可能なデマンド型交通
	B) モビリティの共用化	• 介護、観光等で使用される車両（運転手）の共用化や貨客混載
	C) 市街地のモビリティのシェアリング	• 住民、短中期滞在者、観光客等の移動の利便性向上
	D) MaaS	• 公共交通はじめ多様なモビリティを利用できる仕組みの導入
② 弱者（子供、高齢者等） の安全	E) GPSによる移動需要把握	• GPSによる子供・高齢者の見守りとともに、移動状況・需要を把握
	F) 防災・エネルギー	• 情報プラットフォーム構築と電動車活用による災害対応力強化
	G) 健康・救急医療	• 健康情報を介護や緊急医療に活用するデータ収集・活用を試験導入・検証
③ 地域経済の活性化	H) 関係人口の増加	• リモートワーク、ワーケーション等の整備。それに伴う移動の利便性向上
	I) インキュベーション支援	• 住民アイデアの事業化を支援する仕組みづくり、人材や企業の流入促進
	J) データ・地図の活用	• 多様なデータを地図上で可視化。効率化、暮らし・地域経済の向上に活用

「豊岡スマートコミュニティ」の目指す姿

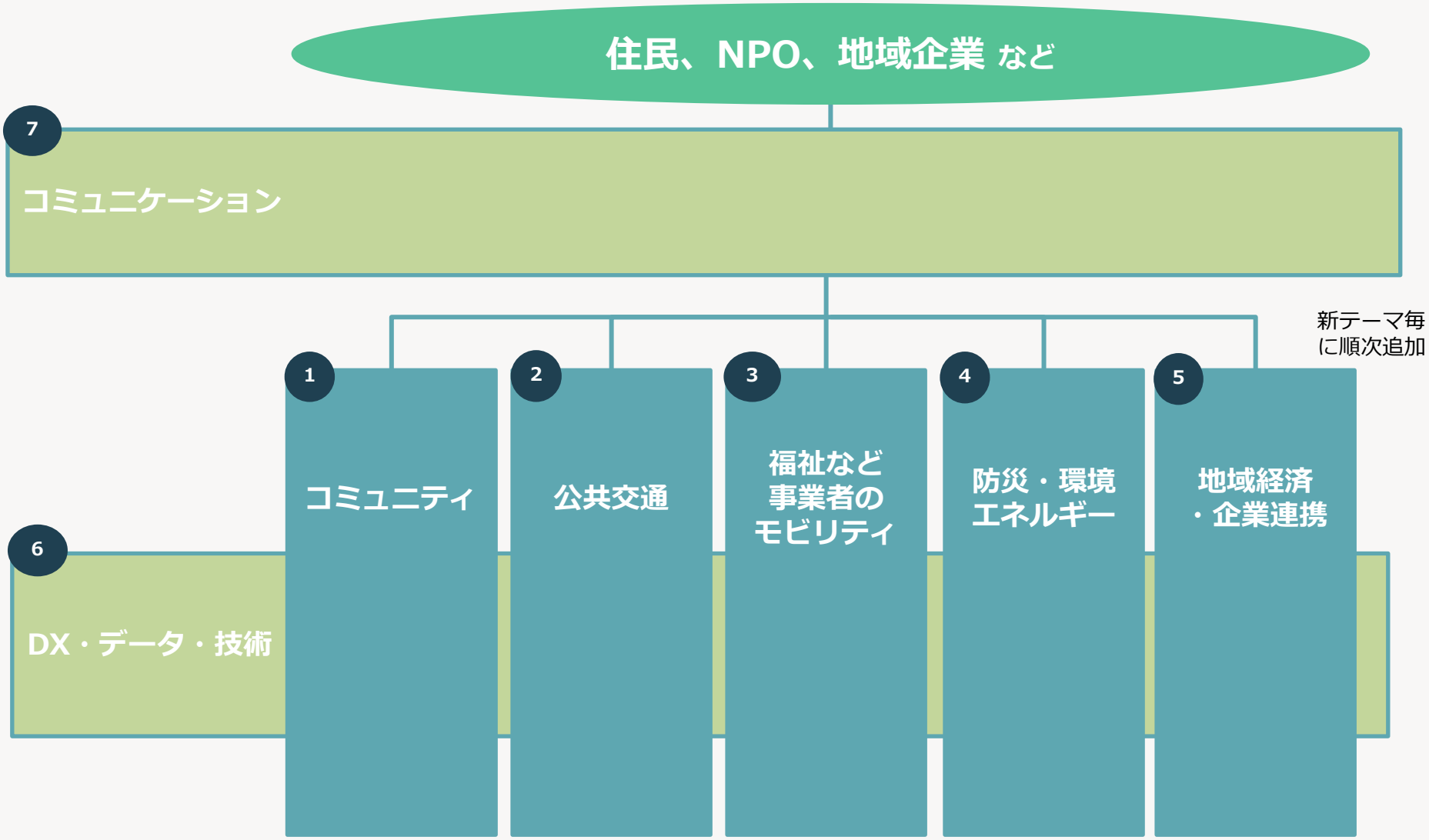
・「疎」の非効率と弱点をテクノロジーでカバーし、人々が多様性を受け入れ、フラットにつながり支え合う「スマートコミュニティ」の実現を目指す

・人々の幸せな暮らしに不可欠なモビリティをサステイナブルに維持するためにデータ・テクノロジーを活用する



豊岡スマートコミュニティ推進機構

（本年5月設立。代表理事・豊岡市長、理事・TMF事務局長、IT関連有識者　）



市役所の複数部署と協働。TMF職員も現地活動

最適なモビリティ

自治体のサービス向上

住民の利便性向上

目指す姿

地域の活性化

新規サービス創出

ヒトの流入

プロジェクトを通して得た学び

1. 移動課題のみならず、地域の真の課題・ニーズを把握

2. 人流・物流の現状、潜在需要を把握し対策

3. 継続可能な仕組み作り(コスト、担い手の確保)

4. 多様なプレイヤーが持つ知見の活用

TOYOTA mobility FOUNDATION